

熱帯低気圧に対する農作物の事前・事後対策

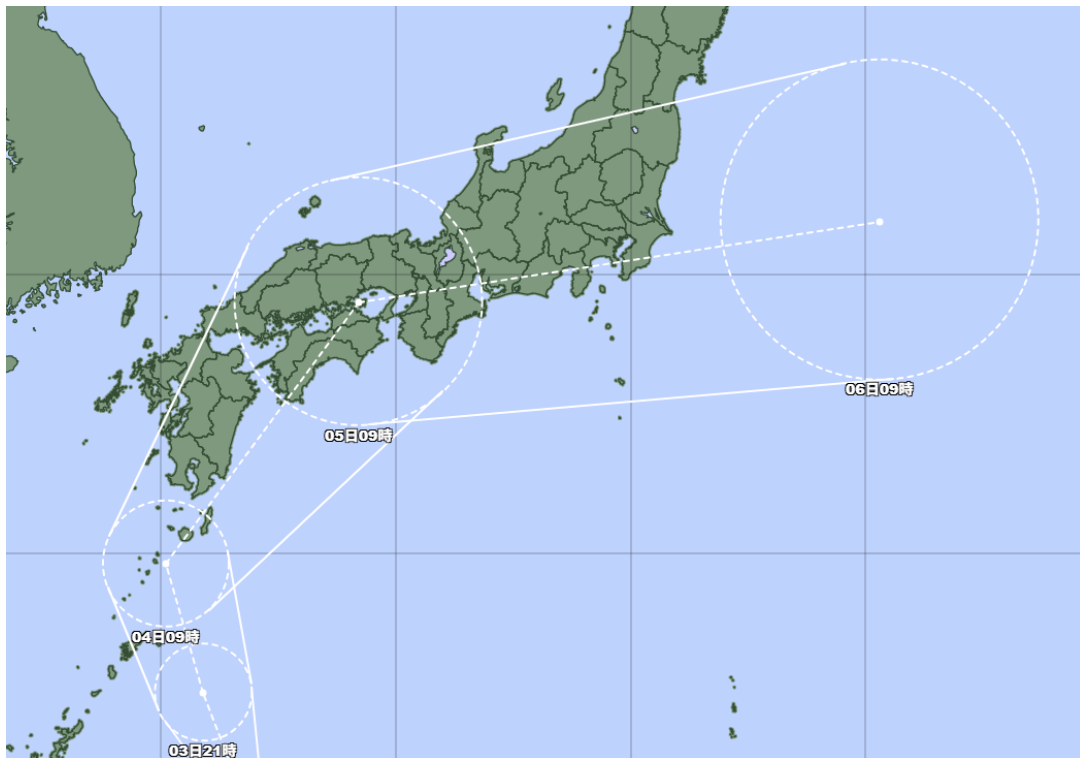
令和7年9月3日

農業技術課

熱帯低気圧の現況と予想

気象庁の発表によりますと、日本の南の沖に発生した熱帯低気圧は、9月4日の夜には台風に進達する見込みです。また、48時間後の5日9時には西日本の北緯34度30分、東経134度10分を中心とする半径240キロの円内に達する見込みです。中心の気圧は1000ヘクトパスカル、最大風速は18メートル、最大瞬間風速は25メートルが予想されます。

今後、発達し、東に進むことから、山梨県に影響が出る可能性があります。最新の台風情報を確認し、対策を徹底して下さい。台風の右側は風・雨ともに強くなります。被害が大きくなるおそれがあるので、特に注意して下さい。



(出展 気象庁台風経路図 9月3日9時現在)

共通事項

- ① 台風情報に注意し、事前対策は早めに実施する。台風の接近中は、強風等による人的被害の危険性が高まるので、大雨や強風が収まるまでは、見回り等は行わない。また、大雨が収まった後でも増水した水路その他、危険な場所には近づかないなど安全には十分注意し、転落、滑落事故に遭わないように慎重を期す。
- ② ハウス等については、強風に備え、金具等の緩みを点検、補修する。マイカ線等による被覆資材の固定、妻面の補強など、暴風対策を実施する。飛来物による損傷を防止するため、飛ばされる恐れがあるものは、片付けておく。また、農機具庫や作業小屋等についても必要な補修を行う。
- ③ 収穫期を迎えた農作物については、集出荷施設等からの指示に従って収穫を行い、未熟なものは収穫しない。

果 樹

〔事前対策〕

- ① 冠水、滞水の恐れのあるほ場では、排水路を点検、補修する。
- ② 傾斜地等では、樹冠下の土壌流亡を防ぐため、敷ワラや敷草を行う。
- ③ 収穫が終わったほ場では、マルチ等を回収する。収穫前のほ場では、強風によりマルチが飛ばされたり、捲かれたりしないようにマルチ押さえを補強しておく。

＜棚栽培果樹＞

- ① 強風による棚のゆれや倒壊を防ぐため、つか杭を追加設置する。
- ② 収穫が終わった園では、防鳥網を取り外すか、縛ってまとめておく。
- ③ ブドウでは、新梢が強風により棚から外れるのを防ぐため再誘引を行う。
- ④ ブドウでは、大雨による裂果を防ぐため排水対策を徹底する。
- ⑤ 収穫中や収穫前の園では、防風ネットが利用できる場合、棚の周囲に設置する。
- ⑥ 簡易雨除けを設置してあるほ場では、強風でビニール等が飛ばされないよう、補強を行う。

＜立木果樹＞

- ① 倒伏や主幹部の損傷を防止するため、支柱などで固定する。帆柱が設置してあるモモ園等では針金を点検し補修する。
- ② 収穫前の園では、枝のゆれによる傷や落果を防ぐため、風の当たりやすい枝を中心に支柱などにより固定する。

＜施設果樹＞

- ① 施設栽培では、棚やパイプ等の骨材の点検を行い、必要に応じて補修や補強を行う。特にビニールがまくられないようにマイカ線等の点検を徹底する。
- ② ブドウの雨除けハウス等では、施設の倒壊を防ぐため、風が強くなる前にビニールを巻き上げる。簡易雨よけは、マイカ線でビニールを固定する。

〔事後対策〕

- ① 園地が滞水している場合は、速やかに排水対策を行う。また、傾斜地で根元の土壌が流亡している場合は、土寄せを実施する。
- ② 樹が倒伏した場合は、台風通過後直ちに、根を切らないように樹を起こし、根元に土を寄せ支柱等で固定する。
- ③ 太枝が裂けた場合は、裂傷部をビニールで覆い、縄等で結束する。なお、裂傷がひどい場合は、裂傷部を平らに剪除し、ゆ合剤を塗布する。
- ④ ブドウは、枝や新梢の再誘引、カサのかけ直しを行う。また、葉ズレ、カサズレ、打撲のひどい果粒は摘粒する。
- ⑤ 落果した果実は、病害の伝染源となるため、速やかに園外へ持ち出すか、土中に埋める。
- ⑥ ほ場を見回り、裂果や果実腐敗病が発生している場合には、速やかに除去する。特に、ブドウでは裂果が発生しやすいため注意する。
- ⑦ 強風や雨により、枝葉や果実等の損傷や泥のはね上がりなどから、病害の発生が心配されるため、JAの指導や防除暦に従い薬剤防除と発病果などの除去を徹底する。
- ⑧ 収穫後のほ場においても、防除暦に従い薬剤防除を徹底する。
- ⑨ 施設栽培では、棚やハウスの骨材、ビニール、各種の装置、機具、機械等を点検し、破損のある場合は修理する。

野 菜

【事前対策】

- ① ほ場周辺の排水路を点検、補修、整備し、排水路からの逆流防止のため、ゴミ等を取り除く。また、ほ場内には、排水溝を設ける。
- ② 風の強く当たる地域では、ほ場周辺に防風ネットを設置する。
- ③ ハウスや雨除け施設などの支柱や基礎などを点検、補強するとともに、ビニールがまくられないようにマイカ線等を点検し施設の被害防止に努める。
- ④ 強風による飛しょう物で、ハウスなどの施設が損傷を受けないように、周辺の清掃や防風ネットを設置する。
- ⑤ ナス、トマト、キュウリ等は、倒伏を防ぐため、支柱の補強、固定、誘引等を行う。
- ⑥ 収穫期を迎えている果実は、台風情報に注意し、必要に応じ速やかに収穫する。
- ⑦ スイートコーンは、受粉期以降から収穫前のステージでは雄穂を切除して草丈を低くするトッピング処理を行うことにより、倒伏軽減効果が得られる。

【事後対策】

- ① 滞水しているほ場は、速やかに排水を行う。
- ② 茎葉の損傷や泥のはね上がり、汚水の浸入等により、疫病、菌核病など病害の発生が懸念されるため、防除基準に従って薬剤を散布し、病害の発生を予防する。
- ③ ナス、キュウリ、トマト等は、キズ果を早めに除去し、樹の負担の軽減を図る。
- ④ 倒伏したものは速やかに引き起こす。この際、根を切らないように注意する。ただし、スイートコーンは、無理に引き起こすと根を傷めるので、原則そのまま管理する。
- ⑤ スイートコーンは、すす紋病の発生・拡大が懸念されるので薬剤散布を行う。また、追肥を行い、樹勢を低下させないように努める。

花 き

【事前対策】

- ① 野菜の事前対策①～④に準拠して、被害防止に努める。
- ② 露地切り花は、フラワーネットや支柱などの点検・補強を行い倒伏防止に努める。
- ③ 鉢花の露地ベンチ栽培では、ベンチに固定できる鉢利用（C鋼鉢）や穴あきトレーを利用するなど倒伏防止に努める。

【事後対策】

- ① 滞水しているほ場は、速やかに排水を行う。
- ② 露地切り花が倒伏した場合は根を切らぬように引き起こす。
- ③ 茎葉の損傷により、べと病やうどんこ病、灰色かび病など病害の発生が懸念されるため、防除基準に従い予防散布を徹底する。

水 稲

【事前対策】

- ① 浸水・冠水害を防止するため、排水路の点検、補修、ゴミの除去を行う。
- ② 事前に水口、排水口をふさぎ、水の流入を防ぐ。
- ③ 収穫までに期間のある作型については、水を深めに張り、株元を保護する。

【事後対策】

- ① 浸水や冠水した水田では、早急に排水に努め、新鮮な水を灌漑する。
- ② 強風で葉がこすれると、白葉枯病が発生することがあるので注意する。
- ③ 倒伏した場合、収穫時期に達しているものは排水後、速やかに収穫を行う。収穫時期に達していないものは引き起こして数株ごとに結束する。
- ④ 稲架が倒伏した場合は、早めに引き起こし、乾燥に努める。

大豆

【事前対策】

- ① ほ場周囲に排水溝を設置する。
- ② 滞水しやすい部分には、あらかじめ溝切りをする。

【事後対策】

- ① 滞水しているほ場は、速やかに排水を行う。

畜産

【事前対策】

- ① 畜産施設については、損傷、倒壊等を避けるため早めの点検を行い、必要に応じて補修を行う。
- ② 畜産施設への浸水の恐れがある場合、溝を掘るなどして排水に努める。また、畜舎への浸水等による家畜への被害に備え、事前に避難場所の確認などを行う。
- ③ 停電や断水等への対応を確認し、必要に応じて発電機等の手配をするとともに、搾乳作業やバルククーラーの冷却に支障のないよう、万全を期す。

【事後対策】

- ① 飼料作物
 - ・冠水や浸水等の被害を受けたほ場においては、速やかな排水に努める。
 - ・飼料用トウモロコシの倒伏及び茎の折損等が著しく回復が期待できない場合は、青刈り利用またはサイレージ調製を行う。
 - ・サイレージ調製時には、乳酸菌等添加剤を利用し安定した発酵促進を図るとともに、利用の際は、飼料分析を実施しサイレージの発酵品質等の確認を行ってから家畜に給与する。
- ② 家畜
 - ・個体観察の徹底、疾病の早期発見と蔓延防止に努める。
- ③ 畜舎
 - ・冠水等によって変質した飼料は廃棄し、飼料タンク内の点検や飼料庫の通風を促す。
 - ・畜舎、牧柵、防鳥ネット等の施設の破損、汚染がないかを確認し、必要に応じて補修、洗浄、消毒を行うよう努め、疾病等の未然防止に努める。
 - ・堆肥舎、牛舎から流出した堆肥や家畜ふんは、速やかに回収し消石灰等散布を行い、悪臭等の発生抑制に努める。
 - ・雨水等の流入により濡れた敷料は除去し、乾燥した敷料に交換する。